

◇平成20年度多摩森林科学園森林講座のお知らせ

多摩森林科学園では下記スケジュールで森林講座を開催します。
これは、森林総合研究所の研究成果を一般の方々に分かりやすく解説し、森林・林業や木材への関心をさらに深めていただくために行うものです。どうぞお気軽にお申し込みください。

5月30日（金）

湿地林と人々の暮らし

～東海アジアを中心に～

湿地林はさまざまな林産物を提供し、漁場として人々の暮らしを支えるユニークな生態系です。また湿地林は地下に多量の炭素を蓄積し、地球温暖化の防止に役立っています。



講師：田沼隆一
(国際連携推進拠点員)

6月20日（金）

鹿島の自然、ヤクタネゴヨウ

～知る絶滅の危機から保全は可能か？～

鹿角島島の屋久島と種子島にのみ分布するヤクタネゴヨウが、絶滅の危機に瀕しています。このマツの衰退状況と、一般市民等と取り組んでいる保全活動について紹介します。



講師：金谷繁一
(森林遺伝研究領域主任研究員)

7月8日（火）

木屑を使ってダンゴ製造

アレルギートラップの原理となるフナグサと住環境の関わり、木の屑りのダンゴ製造体験を、チップや木材を原料とした型を用いた実験を通して紹介します。



講師：平島清
(複合材料研究領域主任研究員)

8月21日（木）

林地残材チップでバイオマスエネルギー利用拡大

我が国で林地残材のエネルギー利用を拡大するには、残材収集システムの整備、地域の熱需要の掘り起こし、高性能チップボイラーの導入が重要であることを説明します。



講師：久保山裕史
(林業経営・政策研究領域主任研究員)

9月13日（金）

渓流水質で電気の発電試験

森林域を貫きながら流れる渓流。同じように見えて場所によって異なる渓流水の水質について、また、雨水についても長期観測のモニタリングや広域調査の結果を紹介します。



講師：伊藤優子
(立地環境研究領域主任研究員)

10月1日（水）

噴火跡地に緑を再生する

噴火で緑が失われて裸地状態の火山では土石流等の土砂災害の危険性が高まります。三宅島や島根県雲仙の噴火跡地に緑を再生する方法を紹介することによって、火山に緑があることの防災的意義と緑の再生を取り巻く課題を解説します。



講師：小川泰造
(水土保全研究領域主任研究員)

10月24日（金）

オオタカと人との共生について考える

オオタカは平野や山に生息するため人間の活動と切り離した保全を行うことができない。オオタカと人間はどうかやれば共存できるのか？



講師：尾崎研一
(森林防災研究領域チーム長)

11月11日（火）

バイオマス林の育成

成長の早い樹木をこくしい期間で育て、木質ペレットやバイオエタノールなど環境に優しい燃料の原料とする試み。バイオマス林の育成について解説します。



講師：丸山温
(北海道支所地域研究部)

12月3日（木）

日本の山火事と世界の山火事

近年、アメリカやインドネシアなどの世界各地で大規模な山火事が発生し、多くの森林が焼失しています。山火事の発生・拡大のメカニズムとその対策について、日本と世界を比較しながら解説します。



講師：佐藤長明
(気象環境研究領域チーム長)

1月15日（木）

スギ花粉症と森林管理

～花粉症のために今できること～

スギ花粉量は桜花の減少や地球温暖化により今後とも増える予想されます。何もしなかったときの花粉量を21世紀末まで推定し、対応の課題について解説します。



講師：宮野雅之
(環境化対応推進拠点員)

時間：午後1時15分～午後3時

会場：多摩森林科学園（集合場所：森の科学館）

定員：各50名（申込多数の場合は抽選）

受講料：無料（ただし、入園料として300円必要です）

お申し込み方法

往復はがき、ファックスまたは電子メールで1）受講したい講座名、2）住所、3）氏名、4）電話番号をお書きのうえ、受講希望講座開催日の2週間前までお申し込み下さい。往復はがきによるお申込みは、1週に対し1講座1名の応募とさせていただきます。電子メールによるお申込みは、多摩森林科学園ホームページをご覧ください。

お申し込み・お問い合わせ

多摩森林科学園

〒193-0843

八王子市はま町1633-61

TEL:042-661-0200

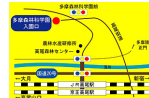
FAX:042-661-5241

ホームページ

<http://www.ffrci-junk-affrc.go.jp/>

JR中央線、京王電鉄高尾線「高尾駅」北口より徒歩約10分

※駐車場がありませんので、お車でのご来園はご遠慮下さい。



◇「所報」の最終号発行にあたって

巻頭語にて林業興隆が記されていますように、林業試験時代から44年間、524号にわたって発行してきました森林総合研究所「所報」は、今号をもって廃刊となります。永年にもわたってご愛読いただき、ありがとうございました。現在、一般向けの広報誌を新年度から発行すべく準備を進めております。引き続き新たな広報誌もご愛読いただきますよう、よろしくお願ひいたします。